日本神経学会 議事録

平成 25 年度日本神経学会第 5 回理事会議事録要旨

日 時：平成 26 年 1 月 24 日（金）13：30～17：20

場 所：東京国際フォーラム G409 会議室

出席理事：阿部康二，宇川義一，内山真一郎，梶 龍兒，亀井 聡，吉良潤一，楠 進，佐々木秀直，鈴木則宏，
祖父江元，高橋良輔，辻 省次，中島健二，西澤正豊，服部信孝，水澤英洋，峰松一夫，山田正仁，山本光利，
吉井文均

出席監事：葛原茂樹

欠 席：清水輝夫（監事）

陪 席：西山和利（総務幹事），寺尾安生（前総務幹事），事務局 池田義春（事務長），満富陽子，西井奈穂
（五十音順 敬称略）

議題

（審議事項）

- (1) 委員会設置に関する規程改正（案）について
- (2) セクション新設について
- (3) セクション設置規程（案）について
- (4) 会員制度等改正案について
- (5) ガイドライン作成要項の制定について
- (6) ガイドラインの改定について
- (7) 指導医の認定及び認定更新手続きに関する規程の見直しについて
- (8) 臨床神経学編集に関する見直しについて
- (9) DSM-5 の認知症関係の用語の和訳について（認知症セクション）
- (10) 内科系技術についての診療報酬評価に関する提案について
- (11) 委員会構成について
- (12) 日本専門医機構（仮称）設置に関する要望書提出について
- (13) 診療科の名称について

（報告事項）

- (14) 第 55 回学術大会準備状況について
- (15) 平成 25 年度予算執行状況について（平成 25 年 12 月末）
- (16) 平成 26 年度予算作成スケジュールについて
- (17) 各種委員会報告
  - ① ガイドライン統括委員会
  - ② 施設認定委員会
  - ③ 診療向上委員会
  - ④ 教育委員会
  - ⑤ 専門医制度検討委員会
  - ⑥ 専門医認定委員会
  - ⑦ 学術大会運営委員会
- (18) 日本医学会「医学研究の COI マネージメントに関するガイドライン」の改定についての報告
- (19) 「疾病及び関連保険問題の国際統計分類」第 10 回改訂分類（ICD10）の一部改正の適用について（意見提出）
- (20) 紀伊 ALS/PDC の診断基準について
- (21) 改正道路交通法における質問票修正案について（意見提出）
- (22) XXIII World Congress of Neurology（2017）および第 32 回国際てんかん学会（2017）のご提案
- (23) 日本医学会評議員会
- (24) 日本専門医制評価・認定機構評議員会
- (25) 日本脳卒中对策基本法法制化に向けて

(26) 学術大会時各種委員会の開催について

(27) その他

- ① 外国人名誉会員の推薦について
- ② 会議システムについて
- ③ 次回理事会について

(配布資料)

- 資料 1 一般社団法人日本神経学会委員会設置に関する規程改正（案）について
資料 2 一般社団法人日本神経学会委員会設置に関する規程改正（案）新旧対照表
資料 3 セクション新設案に対する意見
資料 4 一般社団法人日本神経学会セクション設置に関する規程（案）について
資料 5 一般社団法人日本神経学会セクション設置に関する規程（案）
資料 6 定款改正の論点整理
資料 7 会員制度に関する定款等改正案新旧対照表
資料 8 ガイドライン統括委員会関係資料
資料 9 施設認定委員会関係資料
資料 10 DSM-5 の認知症関係の用語の和訳について認知症セクションからの提案
資料 11 診療向上委員会関係資料
資料 12 専門医制度検討委員会関係資料
資料 13 診療科名関係資料
資料 14 平成 25 年度収支状況報告（平成 25 年 12 月 31 日現在）
資料 15 平成 26 年度予算案作成スケジュール（案）
資料 16 教育委員会関係資料
資料 17 第 35 回日本神経学会専門医試験の講評
資料 18 第 4 回日本医学会分科会利益相反会議
資料 19 疾病、傷害及び死因統計分類提要 修正提案
資料 20 紀伊半島に多発する筋委縮性側索硬化症 / 認知症診断基準
資料 21 改正道路交通法における質問票修正に対する意見提出関係資料
資料 22 XXIII World Congress of Neurology（2017）および第 32 回国際てんかん学会（2017）のご提案
資料 23 脳卒中对策立法化推進協議会からの依頼文

1 出欠状況の確認

水澤代表理事から、理事は全員出席、定足数を満たしている旨、報告があった。

2 新総務幹事紹介

水澤代表理事から、2014 年 1 月から総務幹事に新任となった西山和利の紹介があった。

3 陪席者紹介

水澤代表理事から、前総務幹事の寺尾安生先生が新総務幹事への引き継ぎのため陪席している旨の報告があった。

4 配布資料について

池田事務長から、配布資料 19 ページ、20 ページが欠番であることのご案内があった。

○ 議事

(審議事項)

(1) 委員会設置規程改正について

池田事務長から、資料に基づき前回の理事会で設置が承認された将来構想委員会を、委員会設置規程に規定化する規定改正案について説明があった。その後審議がなされ、承認された。将来構想委員会の構成員については、委員長（代表理事）、副委員長（望月秀樹先生）、委員（青木正志先生、小野寺理先生、三井純先生、横田隆徳先生、勝野雅央先生、岩坪威先生、赤松直樹先生、井上治久先生、齊藤祐子先生）、幹事（北川一夫先生）、以上の案が承認された。

(2) セクション新設について

水澤代表理事から、セクションに関する資料に基づきメールでの検討経緯の報告がなされた。今後新しく設置する11個のセクションについての説明がなされ、その後の審議を経て承認された。神経腫瘍とスポーツ神経学については、現在まで神経内科では専門とする研究者は少ないが、内科的な側面も重要であり神経内科が貢献すべき領域と考えられることから、これから導入と発展を図るためにセクションを創設することが説明された。各セクションのコア・メンバーを選ぶセクション・チーフには、既に活動中の「脳卒中」：峰松一夫理事、「認知症」：山田正仁理事、「てんかん」：宇川義一理事、「頭痛」：鈴木則宏理事に加えて、以下の先生が承認された。「運動障害疾患（パーキンソンニズム・不随意運動）」：服部信孝理事、「運動失調症」：佐々木秀直理事、「運動ニューロン疾患」：祖父江元理事、「神経感染症」：亀井聡理事、「免疫性神経疾患」：吉良潤一理事、「リハビリテーション」：梶龍児理事、「神経画像」：福山秀直代議員、「末梢神経疾患」：楠進理事、「筋疾患」：砂田芳秀代議員、「神経腫瘍」：西澤正豊理事、「スポーツ神経疾患」：吉井文均理事。

(3) セクション設置規程（案）について

水澤代表理事から、資料に基づきセクション設置に関する規定の概要、セクション設置の目的や業務内容について説明がなされた。セクションは担当する専門領域に関する研究、教育、診療、対外的業務、広報、等に関する業務を行うものとし、セクション・チーフは8名を上限とするコア・メンバーを選ぶ。メンバーが決まれば広報委員会を通して周知していく。他学会で当該セクションと関連が深いものがある場合には、他学会とも協調的に行動していくことになるが、セクションはあくまでも当学会内のものとする。

(4) 会員制度等改正案について

会員制度・倫理規範委員会委員長の西澤理事から、資料に基づき会員制度、名誉会員推薦基準等の改正案について説明がなされた。

特別会員の規定は廃して、海外の該当者は「名誉会員」と「外国人正会員」に分ける。海外の該当者には選挙権はなし。外国人正会員の種別をさらに細分化することは、今回は見送ることとなった。外国人正会員の会費を100ドル（ないし10,000円）相当とすることとなった。

学生会員については、医師免許を持たない学生と、医師免許を持つ学生をわけることとなった。学生会員の会費は免除であるが、初期臨床研修医を対象とする研修医会員の会費も免除とすることとなった。

団体会員については、広告掲載料を支払うことは必要であり、「機関紙に広告を掲載することができる」は削除する。団体会員の会費については、「1口100,000円かつ3口以上」、「学術集会への参加を認めるのは3名まで」となった。また、患者団体やNPOが団体会員になることは可能だが、理事会などでの審議が必要であることが確認された。

日本人名誉会員の推薦基準が承認された。外国人名誉会員の推薦基準について審議がなされた。本学会学術大会等での講演の経験は、本学会からの招待講演であり、企業の招待講演は含まないこととなった。本学会の発展に寄与すると思われる人物を広く推薦する方針である。誰が推薦できるかも明確な規定がないので、この機会に理事が推薦している現状を明文化して整備することとなった。この外国人名誉会員の英語表記は、「honorary member」ではなく、「distinguished member」とすることとなった。外国人名誉会員の推薦基準については基本的に承認されたが、当該委員会で日本語訳を含め文言を追加・再検討し、次の理事会にて最終的に確認することとなった。

梶理事から、学会誌への追悼文の基準について質問がなされた。名誉会員への弔意についての基準は定まっているが、追悼文の基準については会員制度・倫理規範委員会で継続審議することとなった。

(5) ガイドライン作成要項の制定について

ガイドライン統括委員会委員長の祖父江理事から、資料に基づきガイドラインの作成要項（案）について以下の通り説明がなされ、承認された。

(5-①) 診療ガイドライン作成に関するCOIの取り扱いについて

内科系学会のほとんどがCOIを自己申告し、ガイドライン内に公開することで、その責務を果たしていると考えられている。ガイドライン内の公開方法については会社名のみを記載しているものと、個人名を記載しているものがある。神経学会としては、「委員長のCOIが問題になる可能性があり、副委員長を置く。COI委員会と密に連携をとり利益相反に取り組む。COIの自己申告を行い、企業名をガイドライン内に公表する。パブリックコメントを求める。」などで対応していきたい。

(5-②) 診療ガイドラインの転載について

出版社との契約で図表は5点まで、CQ・回答・推奨は1/5まで転載を許可している。循環器学会は図表のみを許可しており改変を一切認めていない。他学会は改変も一部許可し、神経学会と同様に個数の制限などを行っている。転載許可は事務局での判断を基本とし、改変が大きい場合やその他問題が生じた場合に委員による介入を行っている。まずは作成

委員長へ相談し、判断できない事案に関しては統括委員長へ相談することとしたい。監修に関しては取り決めがなく、個人で行っているというスタンスが基本になっている。氏名の表記にあたり、ガイドライン作成委員長の肩書は省いて掲載することとしたい。

(5-③) ガイドライン作成に関する要綱について

統括委員は他の委員会と同様に2年の任期、委員長は原則2期4年間とする。作成委員は改訂にあわせ5年の任期、委員長は原則1期5年間とする。作成委員は原則20名程度とし、改訂時には半数程度を若手中心に交代する。初回の作成委員会の際に半日程度でガイドライン作成について講演(Minds)を受ける。

(5-④) 委員の交代(退任)について

ガイドライン統括委員会の津谷喜一郎先生が評価・調整委員を退任される。ジストニア診療ガイドライン作成委員会から藤本健一先生が退任、宮本亮介先生が事務担当として新任となる。ガイドライン統括委員会に伊藤瑞規先生が幹事として新任となる。

(6) ガイドラインの改定について

ガイドライン統括委員会委員長の祖父江理事から、以下のガイドラインが改訂に入ることが説明され、承認された:「神経疾患の遺伝子診断ガイドライン」(2009年 前委員長 辻省次先生),「てんかん治療ガイドライン」(2010年 前委員長 辻貞俊先生),「認知症疾患治療ガイドライン」(2010年 前委員長 中島健二先生),「多発性硬化症治療ガイドライン」(2010年 前委員長 吉良潤一先生),「パーキンソン病治療ガイドライン」(2011年 前委員長 高橋良輔先生)。

(7) 指導医の認定及び認定更新手続きに関する規程の見直しについて

施設認定委員会委員長の佐々木理事から、資料に基づき指導医の新規認定、認定更新の状況が報告された。指導医の申請案内を指導医資格のある1,319名の専門医に送付し、134件の申請があった。134件すべてについて理事会で承認がなされた。2009年度4月に認定された指導医(制定初年度)2,089名が更新時期を迎え、今回初めての認定更新をおこなった。申請書の提出で問題ないと判断した申請が1,867件、『最近5年間の学会発表・論文発表を3つ以上』記載する項目で、不備により委員会審議の結果、非承認とした申請が13件。指導医辞退者が172件、書類未提出により資格喪失とみなした対象者が37件となった。この更新対象者1,867件について、理事会での承認がなされた。今回の指導医認定更新では辞退、喪失者の数は合計222名となり、新規申請者134名を上回った。施設認定委員会としては、新たな専門医制度とそれに伴った求められる指導医資格の条件を参考に、指導医更新の在り方について検討を要するとの意見が示されたが、今後は専門医制度の変革の中での検討が必要であることが確認された。

(8) 臨床神経学編集に関する見直しについて

編集委員会委員長の鈴木理事から、資料に基づき臨床神経学の完全電子ジャーナル化、学術大会号としている11号および12号の編集方針を変更する案等について提案がなされた。11号および12号を通常号として発刊し、学術大会の大会長講演などは依頼原稿として通常の臨床神経学に掲載していく、学術集会の前抄録を掲載するSupplementとして電子化して学術集会前に発行する。ただし、第55回学術集会については抄録集に載せる広告掲載契約も進んでいるため、第55回大会については現行通りの方針を進めることとし、第56回以降について検討していくこととなった。学術大会の内容の掲載については、編集委員会のみのものであるため、学術大会運営委員会とも協議して第56回大会に間に合うように方針を決定していくこととなった。

(9) DSM-5の認知症関係の用語の和訳について

認知症セクション・チーフの山田理事から、資料に基づきDSM-5の認知症関係の用語の和訳(案)について説明がなされた。“Mild neurocognitive disorder” = 「軽度認知障害」、 “Major neurocognitive disorder” = 「認知症」が和訳案として提案され、その後審議を経て、承認された。認知症学会や老年精神病学会からも同じ訳が提案されたことが報告された。

(10) 内科系技術についての診療報酬評価に関する提案について

診療向上委員会委員長の内山理事から、資料に基づき内保連で検討しまとめた内科系技術についての診療報酬評価に関する提案について説明がなされた。HAMに対してブレドニゾロン、急速進行性のHAMに対してコハク酸メチルブレドニゾロンナトリウムが認可された。また内科特定診療に関する説明がなされ、神経内科が関連する対象疾患としては「重症脳卒中」「化膿性髄膜炎(肺炎球菌性髄膜炎)」「重症筋無力症クリーゼ」「てんかん重積状態・精神運動発作重積症」「脳脊髄の感染を伴う炎症、急性脳炎・急性脳症」があることが説明された。

診療向上委員会に上坂義和先生が委員に加わること、國本雅也先生が副委員長となることが説明され、承認された。

(11) 委員会構成について

(1) ジストニア診療ガイドライン作成委員会委員の交代について、および(2)ガイドライン統括委員会委員の追加について、は議題5で審議済。(3)診療向上委員会委員の追加については議題10で審議済。

(12) 日本専門医機構（仮称）設置に関する要望書提出について

専門医制度検討委員会委員長の祖父江理事から、1月21日に開催された社団法人日本専門医制評価・認定機構加盟学会意見交換会で協議された中立機関として新設される予定の日本専門医機構（仮称）の設置案に対する要望書の提出案について説明がなされた。審議の結果、当学会も他の学会と歩調を同じくして、社団法人日本専門医制評価・認定機構ならびに日本専門医機構（仮称）準備委員会へ意見書を提出することが承認された。

引き続き、祖父江理事から議題17-⑥ 専門医認定委員会の審議状況などが報告され、また内科研修ログ、神経学会の専門医を目指す人のためのカリキュラム、などについて説明がなされた。

(13) 診療科の名称について

水澤代表理事から、資料13に基づいて、診療科名を「神経内科」から「脳神経内科」に変更する案について、メール審議状況も含めて説明がなされた。その後、審議となった。診療科の名称を変更することに対して賛成する意見が多かったが、その場合でも十分に議論してからという意見や変更そのものに慎重な意見も見られた。本件については、今回は議論するだけにとどめ、継続審議することとなった。

(報告事項)

(14) 第55回学術大会準備状況について

第55回学術大会大会長の吉良理事から、別途配布資料16に基づき第55回学術大会の準備状況ならびに教育委員会関係事案について報告がなされた。

(15) 平成25年度予算執行状況について

財務委員会委員長の辻理事から、資料14に基づき平成25年12月末現在の収支状況が報告された。

(16) 平成26年度予算作成スケジュールについて

財務委員会委員長の辻理事から、資料15に基づき平成26年度予算の作成スケジュールについて説明がなされた。その後事業計画（案）を平成26年2月14日までに提出いただくよう各理事に依頼がなされた。

(17) 各種委員会報告

- ① ガイドライン統括委員会については議題5で報告済み。
- ② 施設認定委員会については議題7で報告済み。
- ③ 診療向上委員会については議題10で報告済み。
- ④ 専門医制度検討委員会については議題12で報告済み。
- ⑤ 教育委員会委員長の吉良理事から、資料16に基づき第55回学術大会開催時の各種セミナーの計画、教育に関するアンケート調査のまとめについて報告がなされた。
- ⑥ 専門医認定委員会委員長の中島理事から、資料17に基づき専門医試験の結果の公表について報告され、同委員会の委員変更について報告がなされた。
- ⑦ 学術大会運営委員会委員長の辻理事から、理事会に先立って開催された学術大会運営委員会の審議状況について報告がなされた。また水澤代表理事から理事会に先立って開催された日本神経学会「学会賞」の審査結果が報告された。「学術研究部門」では3件の応募があり勝野雅央先生（名古屋大学）が選考されたが、「診療教育部門」ならびに「楯林賞」についてはそれぞれ2件の応募があったが、受賞該当者なしとなった。

池田事務長から、第55回学術大会の際には各種委員会を開くだけの時間が十分にはとれないことが報告され、各種委員会も効率化、メール会議での代用、などを検討することとなった。

(18) 日本医学会「医学研究のCOIマネジメントに関するガイドライン」の改定についての報告

資料18に基づき、COI委員会委員長の山田理事から、日本医学会「医学研究のCOIマネジメントに関するガイドライン」の改定についての報告がなされた。

- (19) 「疾病及び関連保険問題の国際統計分類」第10回改訂分類（ICD10）の一部改正の適用について（意見提出）
水澤代表理事から、資料19に基づき「疾病及び関連保険問題の国際統計分類」第10回改訂分類（ICD10）の一部改正の適用について用語委員会で検討した結果を提出したことが報告された。
- (20) 紀伊 ALS/PDC の診断基準について
水澤代表理事から、資料20に基づき紀伊 ALS/PDC の診断基準について当該研究班からの要請に基づき ALS のガイドライン作成委員長である中野理事（当時）を中心として検討委員会を構成し検討してもらった経緯とその結果が報告され、承認された。
- (21) 改正道路交通法における質問票修正案について（意見提出）
水澤代表理事から、資料21に基づき改正道路交通法における質問票修正案についての意見をてんかんセクションと認知症セクションで検討してもらい警察庁に提出した旨、報告がなされた。
- (22) XXIII World Congress of Neurology（2017）および第32回国際てんかん学会（2017）のご提案
水澤代表理事から、資料22に基づき、てんかん学会から要望があった第32回国際てんかん学会（2017）の招致運動を進めるに当たり、XXIII World Congress of Neurology（2017）との共同開催について、メール審議の結果が報告され再確認された。すなわち、日本神経学会としては WCN2017 と時期や会場を相接して開催することにより参加者の便宜を図り、より多くの参加者を得るよう全面的に協力する。ただし、具体的な日程やプログラムなどについては国内の学術大会や WFN 本部の意向もあり今後協議が必要である。
- (23) 日本医学会評議員会
宇川理事から、日本医学会は今年度中に名称を変更し法人化する予定であることが報告された。
- (24) 日本専門医制評価・認定機構評議員会
水澤代表理事から、日本専門医制評価・認定機構評議員会について法人を解散し、新しい日本専門医機構（仮称）に移行する方針が説明されたが、社員構成等について質問が相次いだことが報告された。議題12の設置に関する要望書提出についてのことは、その結果である。
- (25) 脳卒中对策基本法法制化に向けて
資料23に基づき峰松理事から、脳卒中对策立法化推進協議会が、自民党の国会議員に対して「脳卒中对策を考える議員の会」への参加を呼び掛ける運動を行っており参加学会にも、その呼びかけをしてほしい旨、要望があったことが報告された。
- (26) 学術大会時各種委員会の開催について
水澤代表理事から、第55回学術大会時の各種委員会開催時間は前日夕刻の3時間を予定しているが、スケジュール調整が困難になる見込みのため、会議開催が必要な委員会は、なるべく早く開催してほしい旨の要望があった。
- (27) その他
- ① 外国人名誉会員の推薦について
水澤代表理事から、外国人名誉会員の推薦は、例年どおり2月末までに提出して欲しい旨、要望があった。
  - ② 会議システムについて
水澤代表理事から、理事会の資料がますます膨大になるため、資料をPDF化し各自のパソコンを活用することを次回には試みたいとの説明があり承認された。Web会議システムの導入やタブレット使用を求める意見もあった。
  - ③ 代表理事の選考について
代表理事から、代表理事の選考に関する規定に基づき、4月ではなく5月の学術大会時の新理事候補者による会議で選出されることが確認された。
  - ④ 次回理事会について
次回理事会は以下の予定と報告された。
日時：平成26年4月12日（土） 14：00～17：00
場所：貸会議場「AP 東京八重洲通り」（ブリヂストン美術館となり）